

2019年4月26日
無溶接継手杭(PJ)工業会
継手研究会

建築構造物の基礎杭に用いる機械式継手の引張有効率について

今般、(一財)日本建築センターにおいて一般評定を取得しております既製コンクリート杭の機械式継手「ペアリング・ジョイント(PJ)」及び「トリプルプレートジョイント(T・P JOINT)」が更新され、PJは<BCJ 評定-FD0393-09>に、T・P JOINTは<BCJ 評定-FD0183-07>になりました。

その結果、継手による杭体の許容引張軸方向力の有効率算定方法が「有孔円盤モデル」から「梁モデル」へ変更となり、既評定に対して新評定では有効率の算出結果が小さくなります。また、各社毎、杭種・杭径毎に有効率は異なるため、建築構造物の基礎杭を設計される際にはご注意ください。

有効率の低減は算定方法の考え方が変更となったことによるもので、ユーザーの皆様におかれましては混乱と御迷惑をお掛けしますが、今回の変更について御理解戴き、今後とも既製コンクリート杭並びに機械式継手を採用して戴けますようお願い致します。

以上